

第19回碧南市芸術文化ホール指定管理者審査委員会 会議録

1 日時

令和元年5月25日（土）午後2時から午後4時30分

2 場所

碧南市民図書館2階会議室

3 出席者及び欠席者

(1) 出席者

清水裕之（委員長）、小林尚、靱山勝人、石川善博、宮本美枝子、杉多鶴、金沢宏治
計7人

(2) 事務局職員

教育部長 奥谷直人、文化創造課長 杉浦宏真、庶務係 新実浩美
計3人

(3) 指定管理者

芸術文化ホール館長 島英之、芸術文化ホール副館長代理 杉浦由加里

4 傍聴者

なし

5 議題

(1) 平成30年度 事業報告書について

(2) 碧南市芸術文化ホール指定管理に関する点検評価について

6 議事の要旨 【 議事の進行 清水委員長 】

あいさつ（委員長）

新任委員よりあいさつ（杉委員）

(1) 平成30年度 事業報告書について

指定管理者が資料に基づき、説明。

< 意見・質疑 >

【A 委員】 報告内容について質問や意見はあるか。

【C 委員】 収支状況について、コメントの中に入場料金の見直しと書かれている。
一般参加者負担の見直しという考えにしていけないと収支のバランス

が取れないということであろうが、それぞれのコンサート（鑑賞事業）に関して文化振興費がいくらか投入されていると思うが、文化振興費をより多く投入するのか、文化振興費を減らして入場料で補うのか、そのバランスをどう考えているか。

【A指定管理者】 平成30年度までの指定管理料と今年度の指定管理料が変わり、平成30年度の試算での考えで文化振興費を当てられなくなったので、入場者収支を増やし指定管理料充当を減らす形をとっていく予定である。

【C 委 員】 結果、収支を増やすには入場料を上げるしかないということで理解してよいか。

【B指定管理者】 事業数は変わらない中で補助費が下がったのであれば、お客様からのアンケートの中でももう少し利用料金が高くても良いとの声も頂戴していたので、やむを得ず値上げを考えていかなければ難しいと判断した。

【C 委 員】 料金を見ると適正な入場料金と思う。入場料を上げて負担が増し、実際お客さんが減ることは避けてもらいたいと思う。

【C 委 員】 収支状況の中で、役務費（デザイン料や広告費など）が予算のほぼ倍近くになっているがなぜか。これだけの予算でやろうとしていたが客足が伸びないために広告や宣伝を増やし、予算と実績が崩れてしまったのか。

【A指定管理者】 いいえ、逆に予算より安くなった。1つの公演で掲載するのではなく複数の公演を同時に掲載することにより広告費については予算を抑え安くなっている。1つ1つの事業で積み上げた金額より同じタイミングでの掲載が多くあったので、そのような形になっている。

【C 委 員】 逆に上がっている報償費とは講習料などか。

【A指定管理者】 報償費というのは個人に対してお渡しする金額である。

【C 委 員】 そこが大幅に上がっているのは講座などが増えたからか。

【A指定管理者】 講座もそうだが、その他の出演者が会社組織になっておらず個々に支払いをしたので増えた。例えばアウトリーチで、小学校は会社組織として作られている口座に支払い、中学校のダンス講師には個人として支払いをしたので、予算では委託料として全て計上したものが、実際

は委託料と報償費に分かれての計上となった。他にも公演で「パリ5人組」の演奏者5名の方たちが会社を創られているわけではないので報償費という形になった。

【B指定管理者】 出演者の方に支払いをしているものは、報償費と委託料の両方で支払いをしている。

【C 委 員】 その結果、若干安く抑えられるということか。

【B指定管理者】 はい。

【D 委 員】 1つ気になるのは今の関連で収入の方だが、1番メインの利用料金や事業収入が予定した予算よりだいぶ少なかった理由は何か大きな予想違いがあったのか。

【A指定管理者】 利用料金は、29年度は1千万円を少し超えていたので、29年度以上に利用があればと思い、30年度は多めの予算で計上したが、そこまで伸びることが出来ず、予算より少なくなった。予算より少ないが実績では29年度とほぼ同額である。事業収入については実施事業について2ページに記載してある「自主文化事業入場率」の29年度の入場率82.4%から30年度は68.12%に減っている。入場者数の割合が60%以下のものが、平成29年度が10事業の中で1事業、30年度は4事業あり、その中でも2事業は50%以下となり、結果その4事業が全体の数字を抑えてしまい事業収入も下がってしまった。

【D 委 員】 29年度が頑張ったということか。

【B指定管理者】 はい。29年度を指標に目標を立てたが、30年度は集客に苦戦した事業も多く、50%切る事業も多く見られてしまった。

【B 委 員】 収支状況で平成30年度は、平成30年4月1日から平成31年3月31日が事業年度で良いか。

【A指定管理者】 はい。

【B 委 員】 そうすると修繕実施状況の明細で最後に記載してあるクロスの修繕の実施日が平成31年4月18日になっているが、これは31年度ではないか。

【A指定管理者】 これは壁紙から塗装に変更したもので、施設の利用日程や業者の関係

で実施日がずれ込んでしまい、実際に実施出来たのが4月になってしまったものである。

【B 委 員】 問題はないか。

【A指定管理者】 市の方に報告し、確認と了承を得た上で実施した。

【B 委 員】 それは、その前後か。

【A指定管理者】 はい。こちらは実施することとして動いていたが、実際の修繕完了が4月18日となったものである。

【B 委 員】 もう一つ、予算執行状況の実績が4,304,906円となっているが、収支状況では4,300,906円になっており4,000円違うので直すように。

【A指定管理者】 はい。すみません。

【B 委 員】 細かいが。

【A 委 員】 いや、大事である。それから行政に質問だが、指定管理者の評価チェックシートの評価項目は指定管理者に伝わっているか。

【事 務 局】 指定管理者に確認したところ当初は伝わっていたが、ここ数年は伝わっていなかった。

【A指定管理者】 1番最初に細分化された資料は見せてもらい、こういった内容で点検するというのを聞き、それに合わせて資料を準備したりヒアリングの受け答えを行い、全体の大きい項目を理解した上で資料を準備するといった形になっている。

【A 委 員】 後で評価する時に評価しなければいけない項目のデータがないものがいっぱいあり、評価が出来ない状況にある。今回は今聞きながら評価をしていくが、来年度は評価項目に併せたまとめをしていただかないと審査員の方がやりにくくて仕方ない。何が1番課題になっているかというと、事業の話はだいたい予想がつくので良いが、市民協働に関して例えばNPO設立をするということが評価項目に入っているが、その件がどこまで進んでいるかなど全く説明がなかった。説明がないと市民協働に関する評価が全く今出来ない状況になっている。連携に関して、今、美術館との連携を一生懸命やったりアウトリーチをやったりといろんなことがあるが、市民図書館と連携を図った運営が出

来ているか、という質問に対しても説明がないので、その辺は行政と指定管理者とでうまく連携がとれていないのでこうなっているのだろうと思う。今云々という話ではないが、来年に向けて書き方を調整して欲しいのと、市民協働に関しては今、どういう状況になっているか説明をしてもらいたい。

【A指定管理者】 事業の中で説明させて頂いたが、市民改革団体「みんなで楽しく企てよう」という団体がある。配布資料の1番後ろの方にチラシを掲載しているが市民参加者を募集し、8名ほどの参加者で今年度は月2回程会を開催し、自主事業の実施に向けて話を進めている。平成30年度の人数は、ほぼ現状と変わらず今いるメンバー+2名の計10名ほどのメンバーがおり、その中で2グループ作り、10月のフォーラムコンサートで読み聞かせを実施していくグループと1月に行ったアオハルコンテストを実施していくグループとして活動した。10月の公演が終わり、12月にきらきらウォークがあると話をした時にスタジオでも実施したし、きらきらウォークという皆さんが多く集まる中で、もう1回やりたいという話があり、もう1回12月にも読み聞かせを開催したので、年2回のえんとつ町のプペルの読み聞かせを報告した。これが1グループ目の内容である。

もう1グループが1月6日に企画したアオハルコンテストという中高生を集めたコンテストを実施した。この中の上位の方たちに2月11日にシアターサウスで開催したマルシェで、マルシェのメンバーと一緒にイベントをやるという形で参加してもらった話になっていたが、1月と2月の参加者のスケジュールが両方とも抑えられていなかった関係で、1月に参加した方と2月に参加した方と別の方々になったが、アオハルコンテストを実施した団体がマルシェの方とスタジオの方と開催した。

全体で2月11日にマルシェのイベント、それからエメラルドホールでテルミンのコンサートを開催し、昨年度は「企てよう」の方たちが10月・12月・1月・2月の4回の公演を実施した。この方たちが自主的に声を掛け合いチラシを考えながらやっていくという形で、そ

の行動について私たちがサポートしていく関係になっている。

【A 委員】 ありがとうございます。くどいようだが、前回の指定管理者審査委員会の時にNPO法人を設立するというのを大きな目標にしており、それが叶わなくて次回やるということになっていて、現在もNPO法人を設立するというのが具体的な目標になって評価項目になっている。NPO法人を設立するよう動いているのか、それとも行政と一緒に辞めて諦めているのか、その辺の判断をしないとこの評価項目が生きてこないと思うのだが、どのように考えたらいいか。

【事務局】 委員長のご指摘の通り皆様方に評価していただく中で、実績が今どこまでやれているのかが指定管理者や我々事務局からの報告の中では審査がしにくく評価出来ない項目があるというのを今実感した。今回の30年度までが第一期の当初指定管理者からの提案を受けた事業を細分化して評価の視点にし、評価項目としてきた。その中でNPO法人設立が当初の目標であったが、結果としては委員長に言われた通りである。今年度からの第二期のこの先5年間は市民協働という視点では館長から話があったような連携を進めていく中で、当面NPO法人設立までのことは、その中には書き込まれていなかったと記憶している。継続性の部分もあるが、次年度の点検評価の項目については、今年度指定管理者からいただいた提案内容に沿ったものが実績として出来ているかという形で点検評価項目が変わってくると思う。それはまた指定管理者と確認し、委員の皆様方にはどこまでの進捗状況か、一つずつの項目の実績が分かるような資料を補足資料として加えたいと思うので宜しくお願いします。

【A 委員】 今回はこれでやらざるをえないが、次年度の評価は、項目を見直すのであれば委員会で見直すというのを決めないといけないと思う。それをやって評価項目については指定管理者に示し、レポートはその部分に合うよう整理してもらおう。実績報告としてこういう資料があるのは別としていいが、そのまとめとして少なくとも評価項目に合う達成度と評価が出来るような内容にまとめた方がいいと思う。去年も難しかった記憶があるのでお願いしたい。

- 【B 指定管理者】 私どもも事業報告書の様式自体5年間同じまま作っており、点検評価のヒアリングを受ける中で、補足が必要な部分を口頭や別資料で説明させていただいているので、そちらを見直すのと同時に私どもの方でも資料を含め様式や骨組みを変えさせていただきます。
- 【A 委員】 例えば、2の事業の実施状況という項目が上の方に何回も出てくるがこれは1個でよい。四半期ごとになっているのがそのまま出ており見にくいのでいろいろと修正をお願いしたい。新しく入られた委員にはとても分かりにくい。今の状況は分かった所以他们を勘案して、後で評価したいと思う。他に何かあるか。
- 【F 委員】 聞き漏らしたかもしれないが、水戸芸術館との連携があるかという項目で、今年は出来なかったのか。
- 【A 指定管理者】 はい。昨年度の審査委員会でも報告したが、連携事業ということでの開催が難しいと私たちと水戸芸術館との双方で合意し、昨年度は水戸芸術館とは実施しないということになった。他館との連携事業ということでオブセッションという10月の公演は小牧市民会館と連携し、また愛知県芸術劇場のファミリープログラムとの連携を実施した。連携事業ということでは、その2館と連携したという形である。
- 【F 委員】 水戸との連携はしてないということですね。
- 【A 指定管理者】 はい。予算的に組んでいるものについては他の公演ということで3月29日にウルフ＝ディーター・シャーフさんのリサイタルを実施した。よって他館連携事業というものと、浮いた予算というのは別々で報告をした。
- 【A 委員】 これも後の評価の時に水戸芸術館との連携の項目が入っているのでもう一回読み替えないといけない。
- 【A 指定管理者】 はい。その通りです。
- 【A 委員】 一生懸命やっているのは良く分かる。
- 【C 委員】 ふるさと納税の返礼事業は碧南市の素晴らしい考え方だと思うが、それを受けてこういった事業をやるのは良い。返礼品に対しては、いろいろ問題になっている所もある。
- 【C 委員】 アンケート結果やグラフ等を見るとほとんどが碧南市・安城市からの

来場で、隣の高浜市は非常に少ない。動線的に来にくいのかもしいないが高浜市の方にもう少しアプローチしてお客さんに寄ってもらえれば良いと思う。高浜市自体が今まであまりホールでの事業をやらず、ホールに出かけることがなくて市民自体が足を運ばないのかもしれないが、今後は高浜市の方にいろいろアプローチし、こちらの方に呼びかけが出来ると良いと思う。

【A 委 員】 難しいと思うが、チラシの配布はどの辺までやっているのか。

【A指定管理者】 こちらから出来る範囲でということになるが、県内の公共施設には送っている。

【A 委 員】 県内の公共施設というのは、県内のホールということか。

【A指定管理者】 はい。ホールです。

【A 委 員】 例えば、碧南市内では公民館などに配っているが、高浜市にはなかなか公民館までは行けないということか。

【A指定管理者】 子ども向けの公演は高浜市の保育園・幼稚園・小学校に配布を依頼し、許可が下りれば子どもたちに配布している。子どもたち向けの公演は学校を通じて手に取る機会が多いと思うが、大人の方たちに対して手が届くところまでは出来ていなかったと思う。

【A 委 員】 そうするのは行政間ではどういう感じになっているのか。越権行為で持って行ってはいけないのか。

【事 務 局】 相手がある話なので、そちらの行政の方が受け入れてもらえれば私も幅を広げていきたいと思う。逆に例えば、愛知こどもの国なども小中学校に配布をして欲しいと市の教育委員会に依頼があれば配ることもある。行政の範囲、動ける範囲もあると思うが、そういう面では相手方も同じだと思う。特段、拒んでいるエリアがあるというような壁はないように感じている。

【A 委 員】 相手方の施設の方から送られても困るとか、いろいろ言われることがあるかもしれない。

【事 務 局】 送られてきた時に、それをどう掲示するかは相手方の判断である。

【A 委 員】 ひょっとしたら開拓出来るかもしれない。

【B指定管理者】 昨年から子供向け事業は高浜市に積極的にアピールしており、お子様

方や親御さんも含めて非常に反応が良い。その影響もあり今年度、大人向けのカルチャー事業の応募も始まっているが、お母さま方のカルチャー事業への参加が高浜市の方が増えている。やはり影響があるなというのをすごく感じているので大人向けの事業もしっかり高浜市の方にもPRしていきたいと思っている。

【A 委 員】 ありがとうございます。

【事 務 局】 先程、評価項目の中で水戸芸術館との連携事業が実施出来ているかということについて未実施となっているが、条件が合わず未実施ということ。他館との連携代替事業としては資料21ページの愛知県芸術劇場主催の公演を開催し、他にも60ページのベルリン放送交響楽団のフルートリサイタルを開催している。こういった代替事業を実施しているのでそちらを見て評価していただきたい。

【A 委 員】 分かりました。だいたいよろしいですか。

【D 委 員】 30年度は映画を3回やっているが、料金設定が800円や500円や無料と設定されているが、その設定の基準があるのか。あと、集客目標が100名だが、実際はかなりたくさん入っている。目標に対して思ったより入ったのか、映画ということできつめに目標設定を立てたのか。

【A指定管理者】 きつめに目標設定しているのは事実だが、昨年度の「人生フルーツ」、是枝監督の「海よりもまだ深く」、フランス映画の「最高のふたり」がシアターサウス映画館として上映する形で、基本的には500円を基準として昨年度は料金設定した。「最高のふたり」はフランス映画ということや、「海よりもまだ深く」はたまたま是枝監督にカンヌの話があるタイミングだったので、目標より多くの方に足を運んでいただいたが、それ以外は一般的なメジャー受けするような映画ではなかったため、集客目標は低めに設定した。「人生フルーツ」については映画の上映後に監督トークショーをしたので料金設定は他の映画より高くした。

【D 委 員】 3倍近くになっているが、こんなに入るものなのか。

【A指定管理者】 そうですね。「人生フルーツ」についても知っている方が本当に多く

おり、東海テレビで作ったドキュメンタリーなので、それを見ていた方がまた見るため来たということと、先程言った通り是枝監督がニュースで話題になった時に「海よりまだ深く」を見に来たことが合わさったと思う。

【B指定管理者】 碧南市内に映画館が無く、お客様からは自宅の近くでこれだけの本数の映画をやってくれるならぜひ、とのことで、全映画に足を運ばれる方も多くなった。今年度もチケットの売り出しをしているが、既に次のチケットも買うから、というお客様もいる。売り出しが始まってすぐに売れる固定数がどんどん上がっているという状況である。

【A 委 員】 いいことである。

【D 委 員】 値段も上げていかないといけないですね。

【A指定管理者】 今年度は500円と料金設定を上げている形になるが、大きくは変更していない。

【A 委 員】 よろしいか。それでは点検評価について事務局から説明してください。

< 事務局より点検評価について説明 >

【A 委 員】 では審査員の皆さまには点検評価チェックシート及び平成30年度点検評価コメントの記入をお願いします。尚、採点結果についてはホームページにて公表させていただきます。ここからは傍聴者及び指定管理者の方はご退席お願いいたします。
ありがとうございました。